

「『気遣ってくれる人がいる』と子どもが感じる事が大事」へのコメント

記事を目にしてくれたメル友から、早速コメントをいただいた。

以下に転記しましたので、参考までにご覧ください。

なお、更にコメントが届きましたら、随時当ファイルに追加掲載します。

2008. 6. 10. 阿部幸泰

⑧ワタシが転勤族の時代、Ptさんには、「どうせ、すぐいなくなるんでしょ」と言われ、ワタシの受け入れに「ある種の冷え」を感じたものでした。

次の異動までの期間を誠心誠意の心で係わってきました。

いまでもワタシはいつも、一人一人を覚えていますし、元気を祈っています。

ある意味「指導者」であった時間を持った上での係わりは忘れる気も忘れるはずがありません。相手が覚えていていなくても、ワタシは忘れません。

小・中学年の年齢では、かれらがこれからたくさんのヒトと係わるでしょう。彼等の成長過程においては、教諭や指導者は、ヒトコマでしょう。

子ども達やPtさん達の中には、忘れるコトもあるでしょう。

が、示してきた誠意はウワベではないコトは、きっと彼等の生き方に、いい影響をしたはず。

彼等は忘れても、ワタシは忘れないねえと伝えただけがあれば十分なのでは…と。

それでヨシだと思っています。

ワタシは、去る時、ワタシは貴方を忘れないが、貴方がワタシを忘れても全く問題はないと伝えてきました。

彼等に記録されるより、どう添えたかが大事なコトだと。

⑦気遣ってくれるひとがいる・・・を読んで、

「自分を気遣い、思ってくれてる人がいる」と子が感じる事、離れるときがくるから

こそ今を大切に重ねること・・・同じ思いです。

そして、最後にあった“「こうだ！」という答えが出ないだけに、まずは教師の戸惑いにもそばで立場を離れて寄り添う人の必要性を感じる”という文が心にすんと入ってきました。

教師自身が人としてそういう存在を持っていること、いてくれると感じていることが、いろんな意味で子へも伝わるのではないかなと感じました。

自分を考えました・・・

少しですが感想まで。

⑥「どうせ先生はずっといないでしょ」と言われたら、私もすぐにことばが出てこないかもしれません。

でも、阿部さんがおっしゃる通り、私も「だから今を大事にしたい」と思います。

私も将来、言語聴覚士としてたくさんの方々と出会いますが、一人の患者さんとずっとかかわり続けることは難しいと思います。

でも、自分がその方の人生の一場面に登場する以上、責任もってかかわるといふ心構えが必要かなと思いました。

⑤子供というのは、現実にある矛盾を容赦なく突いてきますね。

それが、子供なりのエネルギーを込めた「助けて欲しい」のメッセージなのでしょう。

子供が「いま、他の人と繋がっている実感がない」ところからそういった言葉が出てくるんでしょうね。

「将来先生はどこかに行くかもしれないが、なんらかの形で繋がる事はできる。」という思いをしっかりと伝えてあげたいですね。

少し視点は違うかもしれませんが、いまこういう本を読んでいます。

「友達を傷つけない言葉の指導」

赤坂真二 著 学陽書房

第一章 今、子どもたちの言葉が危ない

第二章 温かい言葉かけの学級を作る10のプログラム

第三章 言葉のトラブル 困ったときの処方箋

学校の先生もつくづく大変だなあ、と思い知らされる一冊です。

④「何か心にもやもやすものがあるんだよね。先生は～ちゃんのことが好きだよ。

ずっと担任ではいられないけど、好きな気持ちはかわらないよ。」という気持ちを伝えるかなあ～って思いました。

そして、前の私だったら、手紙のやりとりなどを通して（って相手が望むのであれば）係わりを持ち続けると思います。

確かに、「気遣ってくれる人」「自分のことを好きでいてくれる人（どんなことでも受け止めて包んでくれる人）」がいるからこそ、そこから、こどもは大きくなろうとする気持ちが芽生え、育っていくと思います。

③HP見ました。

私も実習で「(先生のこと)嫌い」と言われて、この先生のこと人ごとに思えずメールしました。

私はそれに対して、「そんなこと言っても先生は、〇〇君のこと嫌いになんかならないよ」と話しました。

このような否定的な言葉には、私は肯定的な答えをしようと思っています。

このような言葉に、先生側も影響されてその子どもを避けるようになってしまっただけでは、どうせ自分はその程度の人なんだと子どもが思ってしまうでしょう。

確かに、言われたくないことを言われたら悲しい気持ちになりますが、そう思ったなら、悲しいという気持ちを話してもいいのではないのでしょうか。

来週から乳児院に実習に行きます。おそらく4才までの子どもが入所しているはずですので、私に否定的な言葉を言う人や攻撃してくる人もいるかもしれません。

しかし、その子どもの気持ちを受け止めて正面から向き合おうと思っています。

②私がもしその子どもの立場だったら、先生の言葉はうれしいと思いました。

先生も離れるのが寂しいと思ってくれていることがうれしかいと感じたからです。

私の言葉で伝えるなら『人と人はどんなに場所が離れても心と心はつながっていられるんだよ。もし遠くへ行っても先生の心の中にずっと〇〇ちゃんはあるんだよ。』と言ってあげたいなと思いました。

阿部先生のように抱きしめてあげることで、きっと子どもは忘れないと思います(^^)

①HPを拝見致しました。

こうした気持ちを受けとめられる、実感できることを幸せと感じられる「人」でいられたら、本当に素敵な出会いにも恵まれ、係り合いを広げていく元気の源になるだろうと思います。

私は、我が子のことを考えながら読んでしまいました。

子供とは、精神的にも彼女自身が自立していく中で、別れというか巣立ちというか、自分の価値観や理想を信じて社会に羽ばたいていく日がくると考えると、それまでの時間を大切にして、係り合いの大切さ、人としての幸せってなんだろうみたいなことを実感してくれるような時間を積み重ねていけたらと思いました。

でも、そうしたことを伝えられる人としての「器」が備わっているのかなと、自分と向き合ってみると、すごく心が揺れてしまいますが。